

2017 年度点検・評価シート

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価 Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

（進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。）

2016 年度大学評価（認証評価）結果指摘事項 ＜概評＞ ・「活動への参加について学部・学科また個々の教員間で意識の差が大きい」ことを自己点検・評価しており、さらなる改善を期待したい。
2016 年度外部評価委員会指摘事項 【特筆すべき事項】 貴大学の特色を活かして、個々の教職員や組織体によって多岐にわたる社会貢献・国際貢献活動が行われていることは評価できる。 【改善提言】 多くの社会貢献活動等に関して、一定の成果は見られるものの、その活動の検証が組織的に十分行われていない。これらの活動を大学としての強みに結び付けられるよう、大学全体としての活動の集約と次年度以降の計画への反映が求められる。また、これらの活動は組織的にホームページに掲載し、積極的に公表することも必要と思われる。
前年度からの課題（2016 年度点検・評価シート IV 次年度への課題 より転記） ノヴァ大学 CIOS 校（オランダ）が企画する国際交流イベントへの学生派遣 スポーツ科学科にて 2017 年度より採用されるスポーツ社会学を専門とする専任教員が加わることによって、社会連携・社会貢献について新たな取り組みを検討する。

I 評価項目・担当部局

対象部局	スポーツ・健康科学部
評価基準 8	社会連携・社会貢献
点検・評価項目(2)	8-2 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動
	学外組織との連携協力による教育研究の推進
	地域交流・国際交流事業への積極的参加
点検・評価項目(3)	8-3 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 点検・評価 対象期間は 2016 年 4 月～2017 年 5 月までとする。（教員数、学生数などのデータの基準日は 2017 年 5 月 1 日）

【点検・評価項目ごとの現状説明】

8-2	地域交流および教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動： 高坂丘陵地区における高齢者を対象とした体力測定イベントを地元自治会との連携によって毎年一回実施している。 鳩山町における高齢者を対象とした年 2 回の体力測定および 2 ヶ月間のトレーニング教室を、鳩山町保健センターの依頼を受け企画・運営のうえ、毎年実施している。 高坂地区の小学生を対象としたスポーツ指導イベント（D-kids）を毎年 1-2 回開催している。 上記の活動には、学部学生が関連授業における理論や実技を習得するとともに、教員による事前指導・打ち合わせを経て、測定・指導員・補助員として参加している。 学外組織との連携協力： 深谷市が地方創生事業の一環として実施している「アスリートクラブ事業」において、深谷市からの依頼を受け、地元小学校の体育授業に保健体育教員を目指すスポーツ科学科学生を派遣し、授業サポートを行っている。 国際交流： 交際交流協定校：オランダのノヴァ大学 CIOS 校、上海体育学院、北マリアナ大学（サイパン島） オランダのノヴァ大学 CIOS 校との交流として、2014 年 7 月、2015 年 5 月、2016 年 4 月に CIOS 校教員が本学部を訪問し、約 2 週間の滞在中に本学部に講義を行った。また、毎年度 11 月に本学部教員の引率により、学生十数名がオランダへ渡航、CIOS 校を訪問のうえ現地で交流活動を行っている（B4-2-23 d2-表 15） 上海体育学院から定期的に留学生を受け入れている。 野外活動演習（ウィンター）の授業においてダイビング実習をサイパン島で実施し、本学部が国際交流協定を締結している現地の北マリアナ大学を訪問し交流活動を行っている。
8-2	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。

	(1) 教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動について【○】 具体的事例： スポーツ科学科では、上記の活動に加えて、「東松山市スポーツ発見教室」(小学生低学年対象)の開催ならびに、ふじみ野市との連携協定に基づく活動が予定されている。(根拠資料：教授会での実施報告) また、「スポーツ・ボランティア」の授業の受講学生に対してスポーツ社会学を専門とする新規採用教員によるプロスポーツ団体をはじめとするボランティア先の斡旋を計画している。(根拠資料：学科ホームページによる派遣先の公開) (2) 学外組織との連携協力による教育研究の推進について【×】 具体的事例： (3) 地域交流・国際交流事業への積極的参加について【○】 具体的事例：本年度、協定校であるノヴァ大学 CIOS 校(オランダ)が企画する国際交流イベントへの学生派遣を予定していたが、欧州圏内他大学の参加の都合の調整がつかず、本イベントの開催が見送られることとなった。これを受け、本年度の学部国際交流事業としては、CIOS 校から教員を招聘し本学部にて特別授業を開講するとともに、次年度以降の交流について当該招聘教員を交えて検討することを予定している。(根拠資料：教授会での招聘の決定) また、交流協定校である上海体育学院との次年度の交流のあり方について検討する。(根拠資料：教授会での提案)
8-3	上記地域連携事業については、新年度開始時に連携先機関との打ち合わせを行い、昨年度の実施について修正・改善の必要性について検討の上、新年度の取り組みについて方針・内容を決定している。
8-8	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 社会連携・社会貢献の検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて【×】 具体的事例：

【効果が上がっている事項】

8-2	
8-3	

【改善すべき事項】

8-2	国際交流については、限られた学部予算枠の中で、国際交流事業への配分額を考慮しながら、現在の交流協定締結校との交流の実施方法についての検討が必要である。そのうえで、連携・相互交流(学生・教員レベル)する海外の大学等の拡大についての検討が可能となる。
8-3	

Ⅲ 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価					
			2014	2015	2016	2017	2018	
中期目標 (2014～ 2018)	8-2 教育研究成果の社会への還元および学外組織との連携協力による教育研究の推進について更なる充実を図ると共に、国際交流事業を活性化 する。	左記の内容が学科協議会、学部教授会等 で提言されている。	→			S	S	
16 年度 目標	8-2 社会連携・社会貢献の方法について、両学科の連携的な活動について 検討を始める。 国際交流協定校の開拓として、健康・医療分野（健康科学科）も視野 に入れて積極的に検討する。	地域連携事業の学部教授会における活動 報告 国際交流委員会による学部教授会にお ける提案				S		
17 年度 目標	8-2 スポーツ科学科は、授業の一環としてのスポーツ関連のボランティア について新規受け入れ先の開拓を目指す。 また、国際交流協定校（CIOS、上海体育学院、北マリアナ大学）との交 流のあり方について再検討する。	ボランティア実績についての地域連携セ ンターおよび教授会への報告 教授会での提案					S	

IV 評価専門委員会所見

8-2【現状】 スポーツ・健康科学部においては、毎年高坂・鳩山地区の高齢者を対象とした体力測定や小学生対象のスポーツ指導イベントを開催していること、また深谷市との連携でスポーツ科学科学生派遣により体育授業をサポートしていることなどは社会連携（地域連携協力）・社会貢献として評価できます。また、国際交流としてオランダの大学やサイパン島・北マリアナ大学との交流も評価できます。学部としての国際交流事業への積極的参加などさらなる取り組みが期待されます。

V 所見への対応

--

VI 次年度への課題

--

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

B8-1 大東文化大学の基準別基本方針 HP
<http://www.daito.ac.jp/information/about/basicpolicy.html> ≪既出≫B1-5

〔追加資料〕